

長崎県壱岐市正村遺跡隣接地石棺墓出土の弥生人骨

松下真実*・水野文月**・松下孝幸***

【キーワード】：長崎県、弥生人骨、石棺墓、男性骨、柱状大腿骨、ゴホウラ製腕輪

はじめに

長崎県壱岐市勝本町勝本浦字正村 554-2 に所在する正村遺跡隣接地において、2020（令和2）年11月、聖母宮の立替に伴う浄化槽設置工事中に、1基の石棺墓（1号石棺墓）が発見され、緊急調査がおこなわれた。調査の結果、石棺内からゴホウラ製腕輪1個を装着した1体の人骨が検出された。この付近は正村遺跡として周知の遺跡で、これまでも石棺が見つかったといわれている（壱岐市教育委員会、2021）。



調査区遠景

正村遺跡は、勝本浦の北海岸沿いに存在する弥生時代から中世に至る複合遺跡で、「以前、正村遺跡では土器や石器片が採集され、石棺墓が発見されたという伝承が地元に残る」（勝本町文化財調査報告書第8集 申山ミルメ浦遺跡、1990）地点である。

壱岐市での弥生時代人骨の出土例は少ない。原の辻遺跡からは1基の土坑墓から男性の弥生人骨が1体出土している（松下、2001）。また、環濠からも散乱状態の人骨が検出されている（松下、1995）。芦辺町の海岸に位置する大久保遺跡では、1基の石棺墓から保存状態がきわめて良好な人骨が1体出土している（松下・他、1988）。副葬品を伴っていないことから時代は明確ではないが、石棺の構造や付近から採集された土器片から、弥生時代の石棺と推測されており（長崎県教育委員会、1988）、出土人骨には上顎右側犬歯を抜去する風習的抜歯がみられた。

長崎県では、壱岐市の原の辻遺跡と大久保遺跡のほかに、長崎市の深堀遺跡、平戸市の根獅子遺跡（金関・他、1954、松下、1996a、松下真実、2017）、大村市の富の原遺跡（松下・他、1986、松下真実・他、2022）と竹松遺跡（松下・他、2018）、佐世保市の宇久松原遺跡（松下・他、1983）と宮の本遺跡（松下・他、1981a）、対馬市の住吉平貝塚（内藤・他、1975）、五島市の浜郷遺跡、小値賀町神ノ崎遺跡（松下、1984a）などから弥生人骨が出土している。

これらのうち、比較的保存状態が良好な大久保遺跡、深堀遺跡、根獅子遺跡、宇久松原遺跡、宮の本遺跡、浜郷遺跡から出土した弥生人骨には「低・広顔、低身長」で、鼻根部が陥凹し、鼻根部に縄文人的特徴がみられ、彼らは西北九州タイプの「縄文系弥生人」であるが、原の辻遺跡出土の弥生人は「高・狭顔、高身長」で、鼻根部が扁平な北部九州タイプの「渡来系弥生人」である。

今回、正村遺跡隣接地の石棺から検出された人骨にはゴホウラ製の腕輪が1点、装着状態でみついている。ゴホウラ製腕輪の発見例は壱岐ではこれまで知られていない。ゴホウラ製腕輪を装着してい

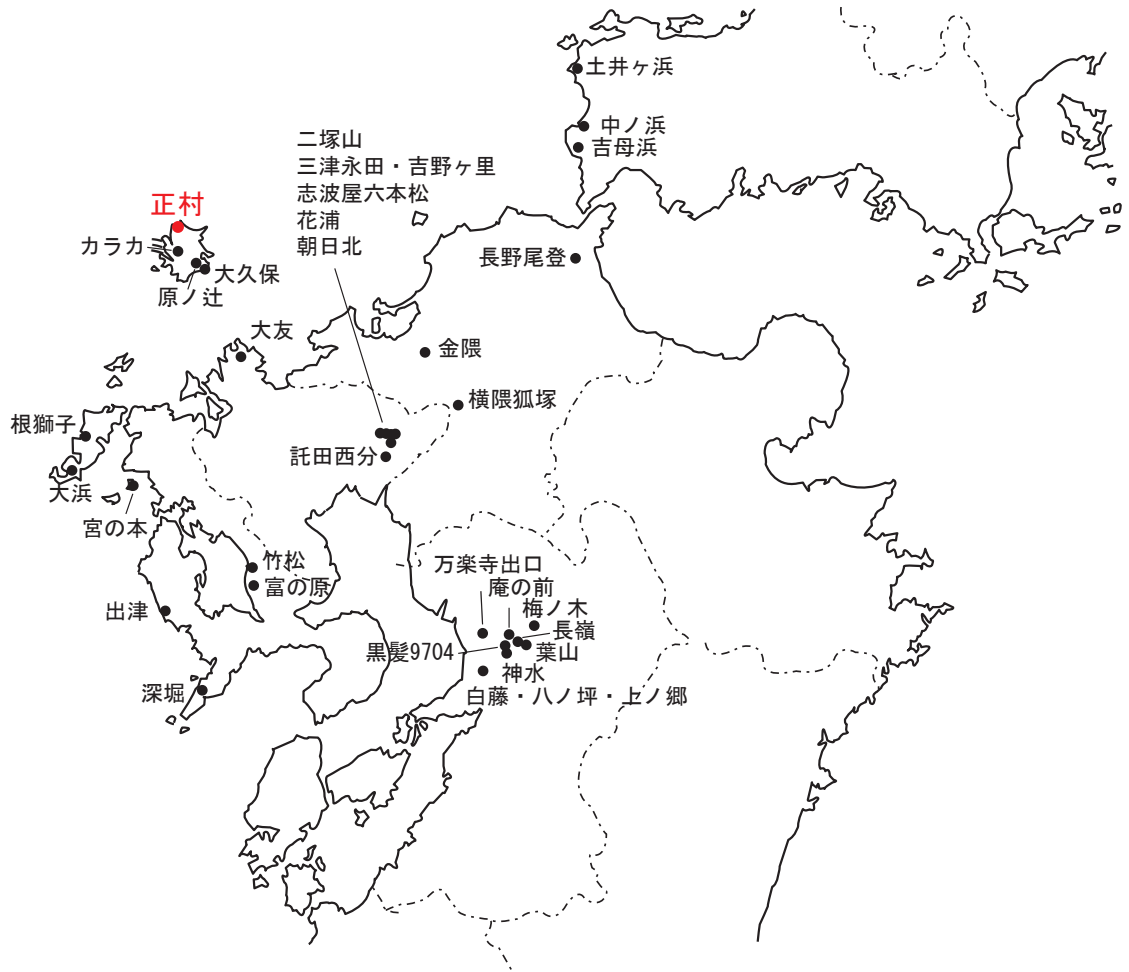


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Shoumura site, Iki City, Nagasaki Prefecture)

た人物の形質的特徴は、南海産貝製腕輪の搬入ルートを考察するうえできわめて重要である。人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察と計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資 料

正村遺跡隣接地からは1基の石棺墓(1号石棺墓)が発見され、棺内から1体の人骨が検出された。この人骨は年齢不明の成人男性骨である(表1.2)。右側橈骨にゴホウラ製腕輪(諸岡型=腕を通す穴を螺塔の腹・背方向へ開ける製作技法)が装着されていたが、副葬品はこの貝輪1点のみである。本人骨は、石棺や貝輪の考古学的所見から弥生時代前期頃に属する人骨と推測されている。年齢は不明であるが、参考までに年齢区分を表3に示した。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法(前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測)で計測した。

表1 人骨体数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
1	0	0	0	1

表2 出土人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備 考
1号石棺墓人骨	男性	不明	ゴホウラ製腕輪1点装着、埋葬姿勢不明

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996b)を参照されたい。

所 見

I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

石棺が発見されたときの人骨は、埋葬された状態を保っておらず、攪乱を受けていた。この攪乱は海水や雨水の流入によるものか、人為的なものなのかは判然としない。四肢骨の保存状態は比較的良

好であるが、頭蓋の大部分は残存していない。また、ゴウホウラ製腕輪の輪の中に右側橈骨が入っていたことから、おそらく貝輪を右腕に装着していたと思われる。

II 人骨の形質

各骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

1号石棺墓人骨(男性・年齢不明)

1. 頭蓋

頭蓋の遺存状態は悪く、ほとんど残存してなかった。

(1) 脳頭蓋

頭蓋片が数点と、両側の岩様部、右側上顎骨、下顎骨が残存していた。保存状態は悪い。前頭結節や外後頭隆起の発達程度は、観察できる部位が残存していないので不明である。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は観察できなかった。また計測もできなかった。

(2) 顔面頭蓋

右側上顎骨が残存していた。保存状態は悪い。下顎骨は、下顎体が残存していた。保存状態は悪い。下顎体の高さは高そうである。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

⑧ ⑦ 6 5 ④ / / /	/ / / 4 ⑤ 6 7 /	[○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明(破損)]
⑧ 7 6 5 4 3 ② /	/ / / / ⑤ 6 ⑦ 8	

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)である。残存している上下両顎の歯槽および残存歯の観察をおこなったが、風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪い。骨体は太く、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、中央周が(75)mm(右)、骨体最小周は68mm(右)、(67)mm(左)で、骨体は太い。中央最大径は(26)mm(右)、中央最小径が20mm(右)で、骨体断面示数は(76.92)(右)となり、骨体の扁平性は強くない。なお、中央部は前面の皮質がやや欠損しているため、実際の中央周と中央最大径はもう少し大きくなる。

②橈骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪い。骨体は太く、骨間縁の発達は良好である。

③尺骨

両側の近位端が残存していた。保存状態は悪い。尺骨頭は大きい。骨間縁の発達は不明である。

(2) 下肢骨

大腿骨、脛骨が残存していた。

①大腿骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪く、骨体には亀裂や表面剥離が認められる。骨体は太い。粗線はきわめて明瞭で、骨体両側面の後方への発達は著しく強い。計測はできなかったが、観察したところ骨体上部の扁平性は弱いようである。

計測値は、骨体中央周が 93mm (右) で、骨体は太い。骨体中央矢状径は 31mm (右)、中央横径が 27mm (右) で、骨体中央断面示数は 114.81 (右) となり、粗線はきわめて明瞭で、骨体両側面の後方への発達は著しく強く、大腿骨は柱状大腿骨である。

②脛骨

両側の骨体が残存していた。骨体前面が欠損している。保存状態が悪く、ヒラメ筋線の発達や骨体断面形は不明である。計測はできなかった。

4. 性別・年齢

性別は、四肢骨が大きく、大腿骨の粗線や骨体両側面の後方への発達が著しく強いことから男性と推定した。年齢は、推定できる部位が残存していないので不明であるが、歯の咬耗が弱いことから比較的若年者の可能性がある。

Ⅲ ミトコンドリアゲノム分析ならびにゲノム性別判定

1. 分析方法

古人骨を物理的に粉末状に粉碎した後、EDTA 溶液にて脱灰し、DNA を抽出した。この脱灰 DNA 溶液からシリカ法にて DNA を精製した。本精製 DNA をもちい、次世代シーケンスのためのライブラリを作成した。古人骨試料から抽出・精製された DNA は極めて微量であるため、次世代シーケンスに必要な DNA 量を確保するためにライブラリの増幅をおこなった。通常、古人骨試料から抽出・精製された DNA は極めて微量であることに加えて、その DNA 溶液に含まれる“真に古人骨由来の DNA”の割合は、多くの場合 0.1% 以下である。そこで、目的とする DNA 領域（本分析においてはミトコンドリア DNA 全領域）を選択的に濃縮する実験手法であるターゲットエンリッチメントをおこなった (Kihara, Mizuno et al, 2013)。ターゲットエンリッチメントにて濃縮したライブラリを次世代シーケンサを用いて分析した。次世代シーケンサによって得られた塩基配列の品質評価ならびにミトコンドリアゲノム全塩基配列の構築をおこない (Ishiya and Ueda 1017)、PhyloTree build 17 (van Oven & Kayser, 2009) にしたがって当該人骨のハプログループを決定した。

次に、DNA をもちいた性別判定をおこなった。全ゲノム領域を目的としたターゲットエンリッチメントをおこない、濃縮したライブラリを次世代シーケンサで分析した。ヒトの核ゲノム参照配列にマッピングして得られた DNA 断片数をもちいて、当該人骨の性染色体は XX (女性) または XY (男性) のいずれの組み合わせを持つのか、Skoglund (2013) の指標に基づいて推定し、性別を判定した。

2. 分析結果

ヒトミトコンドリア DNA 参照配列は 16,569 塩基からなる。正村人骨からは「カバー率 100%」、

すなわちミトコンドリアゲノム完全長の塩基配列を得ることに成功した。また、平均デプスは149であった。デプス（深度）は、独立したDNA断片によって同じ塩基を何回読み取っているかを示す値で、得られた分析結果の信頼度の指標の一つである。

ヒトミトコンドリアDNAの塩基配列は個人間で高い多様性（塩基配列の違い）を示し、塩基配列が類似した配列グループをハプログループとして定義している。母親から子へと受け継がれるミトコンドリアDNAのハプログループを決定することで、母系の系統関係（由来）を推定することが可能である。上述のミトコンドリアゲノム完全長の分析結果から、正村人骨のハプログループは「D4c1a」と決定された。D4というハプログループは、現代日本列島人の割合としてはもっとも高く、33.9%を占めるが、そのサブハプログループであるD4c1aは約1.5%程度である（Mizuno et al,2021）。また、当該人骨は性染色体をXYの組み合わせで持つことがわかり、男性と判定された。DNAに基づいた性別判定結果は、形態情報に基づいた結果と一致していた。

考 察

壱岐島からはこれまで保存良好な弥生人骨が2体出土しているので、この2体の弥生人骨と、長崎県内およびその周辺地域の弥生人骨との比較をおこなってみた。

1. 上腕骨

表4は上腕骨の比較表である。中央周は(75)mm(右)で、大久保と同値で、根獅子の76.67mmに次いで大きく、また最小周も68mm(右)で、根獅子の70mm、大久保の69mmに次いで大きく、上腕骨は太い。骨体断面示数は(76.92)(右)で、表4では最大値となり、横隈狐塚の76.25および大久保の76.00と大差なく、骨体の扁平性は弱い。

骨体中央部は前面の皮質がやや欠損しているため、中央周と中央最大径はもう少し大きくなると思われる。また、骨体断面示数は小さくなると想定されるため、骨体の扁平性はもう少し強いものと思われる。

ところで、正村の上腕骨を、同じ壱岐の弥生人である原の辻および大久保と比較してみた。原の辻の上腕骨は骨体が細く、扁平であるが、大久保の上腕骨は太く、扁平性が弱い上腕骨である。正村の上腕骨は太くて大久保の上腕骨に近い。また、海浜部に立地している平戸市の根獅子の上腕骨も骨体が太く、三角筋粗面の発達も良好で、正村の上腕骨は根獅子の上腕骨にも近い形態を示しており、正村弥生人は上肢（筋）をよく使用していたことがうかがえる。

2. 大腿骨

表5は大腿骨の比較表である。骨体中央周は93mm(右)で、表5では最大値となり、大腿骨は大きい。中央断面示数は114.81(右)で、原の辻の115.54に次いで大きく、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて良好である。

本人骨の大腿骨は大きく、粗線や骨体両側面の発達が良好であることから、上肢筋と同様に下肢筋もよく使用していたことがうかがえる。とくに大腿骨の柱状形成が著明であることから、日常的に垂直移動を繰り返していたことが想定される。遺跡が海岸にあり、背後には山が迫っているという立地を考慮すれば、海と山の両方に生活圏があり、海と山間部の両方の生業形態に携わっていたことが想

起される四肢骨である。

要 約

長崎県壱岐市勝本町勝本浦字正村 554-2 に所在する正村遺跡隣接地において、2020（令和2）年11月に1基の石棺墓が発見され、棺内から1体の人骨が検出された。遺存状態はよくなかったが、人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 1基の石棺墓（1号石棺墓）から1体の人骨が検出された。この人骨は年齢不明の成人の男性骨である。
2. 人骨は埋葬状態（解剖学的位置）を保ってはいなかった。海岸部であることから波で攪乱されたか、人為的に攪乱を受けたかもしれない。
3. 本人骨は、遺構や遺物の考古学的所見から、弥生時代前期頃に属する人骨である。
4. 1点のゴホウラ製貝輪が右側橈骨に装着状態で出土した。
5. 頭蓋は大部分欠失しているため、頭型や顔面の形態は不明である。
6. 上下両顎には風習的抜歯は認められない。
7. 上腕骨の中央周は（75）mm（右）、骨体断面示数が（76.92）（右）で、上腕骨は大きく、三角筋粗面の発達も良好である。
8. 大腿骨の中央周は93mm（右）で骨体の径は大きく、中央断面示数は114.81（右）と大きな値となり、粗線は明瞭で、骨体両側面の後方への発達もきわめて良好である。
9. 本遺跡は壱岐島の北端に位置し、前方は海、後方には傾斜の厳しい山が迫っている。残念ながら被葬者の顔面の形態を知ることができなかつたので、本弥生人が「渡来系」の形質をもつ弥生人なのか、それとも「縄文系」弥生人なのかを、人骨の形態からは明らかにすることはできなかつた。四肢骨は、上肢骨だけではなく下肢骨も大きく、筋付着面の発達が良好であることから、上肢筋と下肢筋をともに駆使する生活を送っていたことが想定される。すなわち、海での生業と後背山野での生業の両方に従事していたことが想定される。また、本遺跡の立地を考えると、この場所は漁撈という生業だけではなく朝鮮半島との往来にとっても非常に重要な場所であったと思われる。被葬者は、ゴホウラ製腕輪を身につけていたことから、海上交通の安全祈願の祭祀を司るシャーマンの役割を担っていた人物と考えられる。
10. ミトコンドリアゲノム解析によって、ハプログループは「D4c1a」であることがわかり、この被葬者は母系の系譜が大陸にある男性であることが判明した。
11. この男性骨は、大久保遺跡や原の辻遺跡から出土した男性骨とは異なる特徴が認められる。このような形態的差異は壱岐島という比較的小さな島のなかでも多様な出自をもつ弥生人が、多様な生業形態や異なる役割を担いながら、生活を営んでいたということを示唆している。また、今回、朝鮮半島にもっとも近い場所にあり、航海安全の祭祀をも担った可能性のある人物の遺伝的系譜が明らかになったことは、弥生時代の人々の移動と定住やそれぞれの居住域、生業形態を考えるうえで重要な情報を提供することになった。

「東京人類学雑誌 第百五十七号」には勝本浦正村石棺墓についての記載がある。本遺跡周辺に

は本石棺墓以外にもまだ石棺墓が存在する可能性が想定される。今後の資料の増加を待って改めて考察をおこないたい。

謝辞

〈擲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた苓岐市教育委員会文化財課の皆様方に感謝致します。〉

〈参考文献〉

1. 苓岐市教育委員会、2021：正村遺跡隣接地の発掘調査成果。山中遺跡 亀丘城三ノ丸跡 国史跡勝本城本丸跡 1次正村遺跡隣接地（苓岐市文化財調査報告書第32集）75-85.
2. 勝本町教育委員会、1990：串山ミルメ浦遺跡－第2次調査報告書－（勝本町文化財調査報告書第8集）
3. Martin-Saller、1957：Lehrbuch der Anthropologie Bd.1.Gustav Fisher Verlag Stuttgart 429-597.
4. 金関丈夫・他、1954：長崎県平戸島獅子村根獅子免出土の人骨に就いて。人類学研究1巻第3～4号 178-226.
5. 金関丈夫・他、1960：山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の弥生式時代人頭骨について。人類学研究7（附録）1-36.
6. 松下真実・他、2017：長崎県平戸市根獅子遺跡出土の弥生人骨。平戸紀要第5号：1-46.
7. 松下真実・他、2022：長崎県大村市富の原遺跡出土の弥生人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第17号：62-73.
8. 松下孝幸、1976：対島の先史生物（人類）。長崎生物学会編「対島の生物」：31-32.
9. 松下孝幸、1979：二塚山遺跡出土の弥生時代人骨。二塚山（佐賀県文化財調査報告書46）：242-255.
10. 松下孝幸、1981a：宮の本遺跡出土の人骨。宮の本遺跡（佐世保市埋蔵文化財調査報告書）：93-109,114-118,145-146.
11. 松下孝幸、1981b：大友遺跡出土の弥生時代人骨。大友遺跡（佐賀県呼子町文化財調査報告書1）：223-253.
12. 松下孝幸・他、1983：長崎県宇久松原遺跡出土の弥生時代人骨。長崎県埋蔵文化財調査集報VI（長崎県文化財調査報告66）：97-134.
13. 松下孝幸・他、1984a：長崎県小値賀町神ノ崎遺跡出土の弥生・古墳時代人骨。小値賀町文化財調査報告第4集 95-100,178.
14. 松下孝幸、1984b：諫早市有喜貝塚出土の人骨。有喜貝塚（諫早市文化財調査報告書第5集）：62-68.
15. 松下孝幸、1985：福岡県小郡市横隈狐塚遺跡出土の弥生時代人骨。横隈狐塚遺跡Ⅱ下巻（小郡市文化財調査報告書第27集）：1-46.
16. 松下孝幸・他、1986：大村市富の原遺跡出土の弥生時代人骨。富の原遺跡群確認調査概報V（大村市文化財調査報告第11集）：30-45.
17. 松下孝幸・他、1988：長崎県苓岐・石田町大久保遺跡出土の弥生時代人骨。長崎県埋蔵文化財調査集報XⅠ（長崎県文化財調査報告書第91集）：77-99.
18. 松下孝幸・他、1991：佐賀県神埼町志波屋六本松乙遺跡出土の弥生時代人骨。志波屋六本松乙遺跡（佐賀県文化財調査報告書第103集（九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書13）：第4章：1-62.
19. 松下孝幸、1995：長崎県苓岐原の辻遺跡出土の弥生時代人骨。原の辻遺跡（長崎県文化財調査報告書第124集）209-220.

20. 松下孝幸、1996a：根獅子遺跡出土の弥生時代人骨。平戸市史 自然・考古編：405-441.
21. 松下孝幸、1996b：土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集）：24-50.
22. 松下孝幸、2001：長崎県壱岐原の辻遺跡出土の弥生人骨。特別史跡原の辻遺跡（原の辻遺跡記念物保存修理に伴う発掘調査）（芦辺町文化財調査報告書第12集）：127-149.
23. 松下孝幸・他、2014：土井ヶ浜遺跡第1次～第12次発掘調査報告書（下関市文化財調査報告書35）第2分冊「人骨編」
24. 松下孝幸・他、2018：長崎県大村市竹松遺跡出土の弥生人骨。竹松遺跡Ⅲ（新幹線調査事務所調査報告書第6集）517-529.
25. 長崎県教育委員会、1988：大久保遺跡 長崎県埋蔵文化財調査補国集報X I（長崎県文化財調査報告書第91集）61-76.
26. 内藤芳篤・他、1975：対馬・住吉平貝塚出土の弥生時代人骨例。対馬の遺跡（長崎県文化財調査報告書20）139-147.
27. 中橋孝博・他、1985：金隈遺跡出土の弥生時代人骨。史跡金隈遺跡（福岡市埋蔵文化財調査報告書第123集）43-145.
28. 牛島陽一、1954：佐賀県東脊振村三津遺跡出土弥生式時代人骨の人類学的研究。人類学研究1：273-303.

《 DNA 分析の参考文献》

- Kihara M., Mizuno F., Sawafuji R., Wnhg L., and Ueda S. (2013) Emulsion PCR-coupled target enrichment : An effective fishing method for high-throughput sequencing of poorly preserved ancient DNA. *Gene*, 528 : 347-351. doi.10.1016/j.gene.2013.07.040.
- Ishiya K. and Ueda S. (2017) MitoSuite : a graphical tool for human mitochondrial genome profiling in massive parallel sequencing. *PeerJ*, 5 : e3406. doi.org/10.7717/peerJ.3406.
- Mizuno, F., Gojobori, J., Kumagai, M., Baba, H., Taniguchi, Y., Kondo, O., Matsushita, M., Matsushita T., Mstuda, F., Higasa, K., Hayashi, M., Wang, L., Kurosaki, K. and Ueda, S. (2021) . Population dynamics in the Japanese Archipelago since the Pleistocene revealed by the complete mitochondrial genome sequences. *Scientific reports*, 11 (1) , 12018, doi.org/10.1038/s41598-021-91357-2
- Skoglund, P., Storå, J., Götherström, A., & Jakobsson, M. (2013) . Accurate sex identification of ancient human remains using DNA shotgun sequencing. *Journal of archaeological Science*, 40(12), 4477-4482.
- Van Oven, M., & Kayser, M. (2009) . Updated comprehensive phylogenetic tree of global human mitochondrial DNA variation. *Human mutation*, 30 (2) , E386-E394.

* Masami MATSUSHITA 特定非営利活動法人・人類学研究機構

** Fuzuki MIZUNO 東邦大学医学部法医学講座

***Takayuki MATSUSHITA 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、NPO法人・人類学研究機構

表4 上腕骨計測値 (男性、右、mm) (Table4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	正村		原の辻		大久保		根獅子		大友		二塚山		金隈		横隈狐塚		土井ヶ浜			
	弥生人	1号石棺墓	弥生人	2001-1	弥生人	1号	弥生人	M	n	M	n	弥生人	M	n	弥生人	M	n	弥生人	M	n
1. 上腕骨最大長	-	-	22	22	306	306	280.50	2	294.33	9	300.00	2	306.4	5	303.00	5	307.25	32	307.25	32
5. 中央最大径	(26)	(26)	16	16	25	25	26.33	3	24.46	37	24.08	12	24.0	12	23.87	23	23.79	73	23.79	73
6. 中央最小径	20	20	59	59	19	19	19.00	3	17.97	37	17.92	12	17.8	23	18.17	23	17.82	73	17.82	73
7. 骨体最小周	68	68	64	64	69	69	70.00	3	64.57	37	65.89	9	65.3	22	63.32	22	64.64	72	64.64	72
7(a). 中央周	(75)	(75)	72.73	72.73	75	75	76.67	3	71.00	35	69.92	12	69.8	23	69.87	23	69.53	73	69.53	73
6/5 骨体断面示数	(76.92)	(76.92)	72.73	72.73	76.00	76.00	73.99	4	73.60	37	74.53	12	74.3	23	76.25	23	75.13	73	75.13	73

表5 大腿骨計測値 (男性、右、mm) (Table5. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	正村		原の辻		大久保		根獅子		大友		二塚山		金隈		横隈狐塚		土井ヶ浜			
	弥生人	1号石棺墓	弥生人	2001-1	弥生人	1号	弥生人	M	n	M	n	弥生人	M	n	弥生人	M	n	弥生人	M	n
1. 最大長	-	-	470	470 (左)	409	409	399.00	2	413.60	15	441.29	7	428.0	7	431.38	8	434.55	31	434.55	31
2. 自然位全長	-	-	469	469 (左)	406	406	395.50	2	409.53	15	441.00	3	425.0	6	427.00	6	430.75	32	430.75	32
6. 骨体中央矢状径	31	31	29	29	30	30	29.17	6	28.85	41	30.40	25	30.1	31	29.96	23	29.55	83	29.55	83
7. 骨体中央横径	27	27	26	26	27	27	25.83	6	26.07	41	28.12	26	27.1	31	27.52	23	26.73	84	26.73	84
8. 骨体中央周	93	93	87	87	90	90	88.00	5	87.22	41	91.84	25	90.3	31	90.44	23	89.00	82	89.00	82
9. 骨体上横径	-	-	28	28	34	34	31.00	6	30.62	42	32.23	22	32.5	26	31.75	24	32.12	84	32.12	84
10. 骨体上矢状径	-	-	28	28	29	29	24.67	6	24.83	42	26.62	21	26.2	26	26.29	24	25.78	83	25.78	83
8/2. 長厚示数	-	-	18.76	18.76 (左)	22.17	22.17	21.63	2	21.13	15	21.23	3	21.5	7	21.97	6	20.71	31	20.71	31
6/7 骨体中央断面示数	114.81	114.81	115.54	115.54	111.11	111.11	112.99	6	111.72	41	108.71	25	110.3	33	109.22	23	110.83	83	110.83	83
10/9 上骨体断面示数	-	-	100.00	100.00	85.29	85.29	79.65	6	81.34	42	82.50	21	80.6	28	82.96	24	80.47	83	80.47	83

表6 上腕骨 (男性、mm) (Humerus)

	正村 1号石棺墓 男性
1. 上腕骨最大長(右)	-
(左)	-
2. 上腕骨全長(右)	-
(左)	-
3. 上端幅(右)	-
(左)	-
3(1). 横上径(右)	-
(左)	-
4. 下端幅(右)	-
(左)	-
5. 中央最大径(右)	(26)
(左)	-
6. 中央最小径(右)	20
(左)	-
7. 骨体最小周(右)	68
(左)	(67)
7(a). 中央周(右)	(75)
(左)	-
8. 頭周(右)	-
(左)	-
9. 頭最大横径(右)	-
(左)	-
10. 頭最大矢状径(右)	-
(左)	-
11. 滑車幅(右)	-
(左)	-
12. 小頭幅(右)	-
(左)	-
12(a). 滑車幅および小頭幅(右)	-
(左)	-
13. 滑車深(右)	-
(左)	-
14. 肘頭窩幅(右)	-
(左)	29
15. 肘頭窩深(右)	-
(左)	16
6/5 骨体断面示数(右)	(76.92)
(左)	-
7/1 長厚示数(右)	-
(左)	-

表7 橈骨 (男性、mm) (Radius)

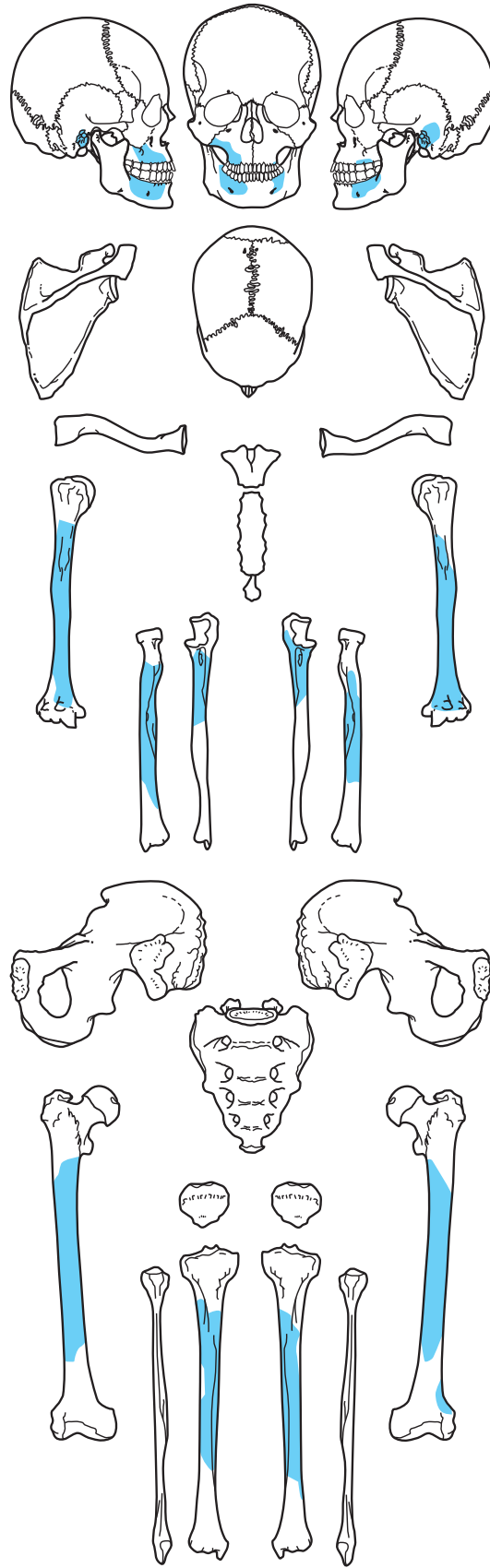
	正村 1号石棺墓 男性
1. 最大長(右)	-
(左)	-
1b. 平行長(右)	-
(左)	-
2. 機能長(右)	-
(左)	-
3. 最小周(右)	50
(左)	-
4. 骨体横径(右)	19
(左)	18
4a. 骨体中央横径(右)	18
(左)	17
4(1). 小頭横径(右)	-
(左)	-
4(2). 頸横径(右)	-
(左)	-
5. 骨体矢状径(右)	14
(左)	13
5a. 骨体中央矢状径(右)	14
(左)	14
5(1). 小頭矢状径(右)	-
(左)	-
5(2). 頸矢状径(右)	-
(左)	-
5(3). 小頭周(右)	-
(左)	-
5(4). 頸周(右)	-
(左)	-
5(5). 骨体中央周(右)	51
(左)	50
5(6). 骨下端幅(右)	-
(左)	-
3/2 長厚示数(右)	-
(左)	-
5/4 骨体断面示数(右)	73.68
(左)	72.22
5a/4a 中央断面示数(右)	77.78
(左)	82.35

表8 大腿骨(男性、mm)(Femur)

	正村 1号石棺墓 男性
1. 最大長(右)	-
(左)	-
2. 自然位全長(右)	-
(左)	-
3. 最大転子長(右)	-
(左)	-
4. 自然位転子長(右)	-
(左)	-
6. 骨体中央矢状径(右)	31
(左)	-
7. 骨体中央横径(右)	27
(左)	-
8. 骨体中央周(右)	93
(左)	-
9. 骨体上横径(右)	-
(左)	-
10. 骨体上矢状径(右)	-
(左)	-
15. 頸垂直径(右)	-
(左)	-
16. 頸矢状径(右)	-
(左)	-
17. 頸周(右)	-
(左)	-
18. 頭垂直径(右)	-
(左)	-
19. 頭横径(右)	-
(左)	-
20. 頭周(右)	-
(左)	-
21. 上顎幅(右)	-
(左)	-
8/2 長厚示数(右)	-
(左)	-
6/7 骨体中央断面示数(右)	114.81
(左)	-
10/9 上骨体断面示数(右)	-
(左)	-

表9 形態小変異(Non-metric crania variants)

	正村 1号石棺墓 男性	
	右	左
1. Medial palatine canal	/	/
2. Pterygospinous foramen	/	/
3. Hypoglossal canal bridging	/	/
4. Clinoid bridging	/	/
5. Condylar canal absent	/	/
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm)	/	-
7. Jugular foramen bridging	/	/
8. Precondylar tubercle	/	/
9. Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)	/	/
10. Accessory infraorbital foramen	/	/
11. Zygo-facial foramen absent	/	/
12. Aural exostosis	-	-
13. Metopism	/	
14. Os incae	/	
15. Ossicle at the lambda	/	
16. Parietal notch bone	/	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/
18. Asterionic ossicle	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	/	/
20. Epipteric ossicle	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	/	/
23. Mylohyoid bridging	/	/
24. Accessory mental foramen	-	/
25. Mandibular torus	-	-
26. 滑車上孔(上腕骨)	/	-



正村1号石棺墓人骨(男性・年齢不明)

図2 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig.2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋 (The skull)



下顎骨 (The mandible)



歯 (The teeth)

正村1号石棺墓人骨 (男性・年齢不明)

(The skeleton from cist 1, the shoumura site, male unknown age)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

正村1号石棺墓人骨(男性・年齢不明)

(The skeleton from cist 1, the shoumura site, male unknown age)